

世界史

(問題)

(2004 早稲田大学国際教養学部)

注意事項

1. 問題冊子は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
2. 問題は2～7ページに記載されている。
3. 解答はすべてマーク解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙の所定欄に氏名のみを記入すること。
5. マーク欄ははっきり記入すること。また、訂正する場合は、消しゴムでていねいに、消し残しがないようよく消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

マークする時	<input type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い
マークを消す時	<input type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い

6. 問題冊子は持ち帰ること。

I 次の文章を読み設問に答えなさい。解答は、マーク解答用紙の所定欄の一つにマークしなさい。

世界の歴史は、残念ながら戦争の記録に満ち満ちている。それらには、それが起こる直接の原因とともに、多くの場合長い歴史的背景があり、現代のわれわれが直面している中近東から南アジアにおける多くの紛争も例外ではない。例えば第1次中東戦争の直接の原因は、国連によるパレスチナ分割案を受け入れたイスラエルの建国とアラブの拒絶にあるが、ユダヤ人によるシオニズム運動の拡大、第1次世界大戦中のフサイン-マクマホン協定とバルフォア宣言というイギリスの二重外交が淵源としてあげられる。またイラン-イラク戦争は、1979年に権力を握ったイスラーム原理主義者ホメイニ師と世俗主義者サダム=フセイン大統領がそれぞれ基盤とするシーア派とスンナ派の対立や国境問題に原因がある。しかしその元をたどれば、いずれもイギリスの委任統治や保護国から独立して目指した近代化の失敗に行きつく。さらにインド-パキスタン戦争は、カシミールの帰属問題を原因として勃発するが、その背景にイギリス植民地統治期のヒンドゥー教徒とイスラーム教徒との分断政策をみることは容易である。これらをさらに遡れば、オスマン帝国、カージャール朝、ムガル帝国という、近代主権国家とは異なる仕組みによって多民族・多宗教をゆるやかに統合していた王朝国家の支配地域を、近代ヨーロッパ列強が人為的に切り裂き、国境線をひくことで分断したことに遠因があるともいえよう。

オスマン帝国が最盛期を迎えていた頃、ユーラシア大陸東端では、明が北虜南倭といわれる外患に悩んでいた。とくに北からのモンゴルの侵攻は、一時皇帝が捕虜となり拉致される事件まで引き起こした。しかし略奪を繰り返すモンゴルは、一方で朝貢貿易の再開を要求している。事実、かれらの略奪品をみると穀物や鍋釜など日用必需品が大部分で、平和的交易によって入手できないための侵攻でもあった。モンゴルの要求を入れた明は、和約を結んで馬市を設け、朝貢を認めた。その結果、侵攻は殆ど止んだのである。明に代わった清は、周辺地域を支配下に収め繁栄を誇ったが、19世紀になると列強の進出の前に、西アジア同様の植民地化の危機に面するようになる。いずれにしても現代の問題を考えるには、16世紀以降の世界史を見る目が不可欠であるといえよう。

問1 下線部 1 について。以下の説明から正しい文章を選びなさい。

- ア パレスチナ戦争とも呼ばれ、建国を認めないアラブをイスラエルが先制攻撃した。
- イ アラブ軍の中核は、アラファトの率いるパレスチナ解放機構 (PLO) であった。
- ウ この戦争で100万人以上ともいわれるパレスチナ人が、故郷を追われ難民となった。
- エ イスラエルは、シナイ半島・ガザ・ゴラン高原を占領し、入植地を建設した。

問2 下線部 2 についての説明として正しい文章はどれか。

- ア ローマ帝国によるキリスト教の国教化によって迫害されたユダヤ教徒たちが、政治的自立をめざしてイスラエルの地に自国を再建しようとした運動。
- イ ペストの大流行はユダヤ人が毒をまくからだ、という流言によって迫害された14世紀のユダヤ教徒たちが、イスラエルの地をめざした運動。
- ウ 民族の同一性を強調するナショナリズムの勃興にともない、国民国家の敵とみなされた17世紀のユダヤ人たちが、イスラエルの地をめざした運動。
- エ ヨーロッパでの反ユダヤ運動や迫害などの高まりをへて、19世紀末のユダヤ人たちが、イスラエルの地に国家を樹立しようとした運動。

問3 下線部 3 の二重外交の説明として誤っている文章はどれか。

- ア イギリスは、フサイン-マクマホン協定においてアラブの対トルコ戦参戦の見返りにアラブ人居住区の独立を約束した。
- イ イギリスは、オスマン帝国領の分割統治を決めたサイクス-ピコ協定において、パレスチナの独立条項を付記させた。
- ウ イギリスは、ユダヤ資本の協力を得るためにバルフォア宣言において、パレスチナ地域でのユダヤ国家建設を認めた。
- エ フサイン-マクマホン協定、サイクス-ピコ協定、バルフォア宣言は、1915年から1917年の間の協定と宣言である。

問4 下線部 4 の主張として最も強調される方針はどれか。

- ア イスラーム法に基づく国家の樹立
- イ アラブ民族主義によるアラブ連盟の形成
- ウ OPEC による原油生産の調節
- エ 反米と親社会主義路線の推進

問5 下線部 5 の説明として誤っているものはどれか。

- ア スンナ派は、アブ=バクル以降、アリーまでのカリフを正統として認める。
- イ シーア派は、第4代カリフとその子孫のみを指導者として認める。
- ウ ムアーウィヤが開いたウマイヤ朝は、スンナ派のイスラーム王朝である。
- エ 8世紀に全盛期をむかえたアッバース朝は、シーア派のイスラーム王朝である。

問6 下線部 6 について、独立前にこの状態ではなかった国はどれか。

ア シリア イ ヨルダン ウ エジプト エ イラク

問7 下線部 7 をめぐる国際紛争の説明として誤っているものはどれか。

ア 藩王がヒンドゥー教徒であるからインドの領土と主張するインドと、住民の大多数がイスラーム教徒であるからパキスタンの領土と主張するパキスタンが対立した。

イ 独立後のパキスタンは反共・親西欧路線をとったが、チベット問題や国境問題でインドと中国が対立すると、社会主義陣営の中国に接近していった。

ウ 東パキスタンが独立の動きをみせてインドに接近、西パキスタンとの内戦に発展すると、インドは独立を支持し、カシミール問題の解決もはかり第3次印パ戦争が勃発した。

エ パキスタンは、インドの核攻撃から防衛するためとして核実験を強行し、アメリカ・ロシア・イギリス・中国・インドに次ぐ第6の核保有国となった。

問8 下線部 8 を目的とした施策はどれか。

ア 新インド統治法の制定 イ 国民会議派の結成

ウ 英印円卓会議の開催 エ 全インド=ムスリム連盟の結成

問9 下線部 9 についての例として適切なものはどれか。

ア イエニチェリ イ ミット ウ デウシルメ エ テイマール

問10 下線部 10 の事件をなんと呼ぶか。

ア 靖康の変 イ 靖難の変 ウ 土木の変 エ 民変・奴変

問11 下線部 11 の説明として正しいものはどれか。

ア 中国王朝が周辺諸国に対し、臣属を条件に属国の商人の自由な往来を認めた制度。

イ 中国の皇帝が貿易の利益を独占するために、朝貢使節だけに首都での交易を許した制度。

ウ 中国の伝統的な国際秩序の観念を背景に、一定の条件のもとで朝貢国に許した制限貿易。

エ 中国王朝の発給した勘合符をもつ外国商人にのみ、広東で公行との交易を認めた制度。

問12 辛亥革命以降の以下のできごと・事件のうち、下線部 12 の藩部に該当する地域に関わらないものはどれか。

ア 中ソ国境紛争時には、中洲をはさんでの武力衝突の現場となった。

イ 解放軍の侵攻をきっかけに反乱が発生、ダライ=ラマ14世の亡命をまねいた。

ウ ロシア革命の影響を受け、世界で二番目の社会主義国が誕生した。

エ 中ソ論争をへて技術協定が破棄された後、自力開発した原爆の実験場となった。

II 次の文章を読み、設問 1 ~ 10 に答えなさい。解答は正解を一つ選び、その記号をマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

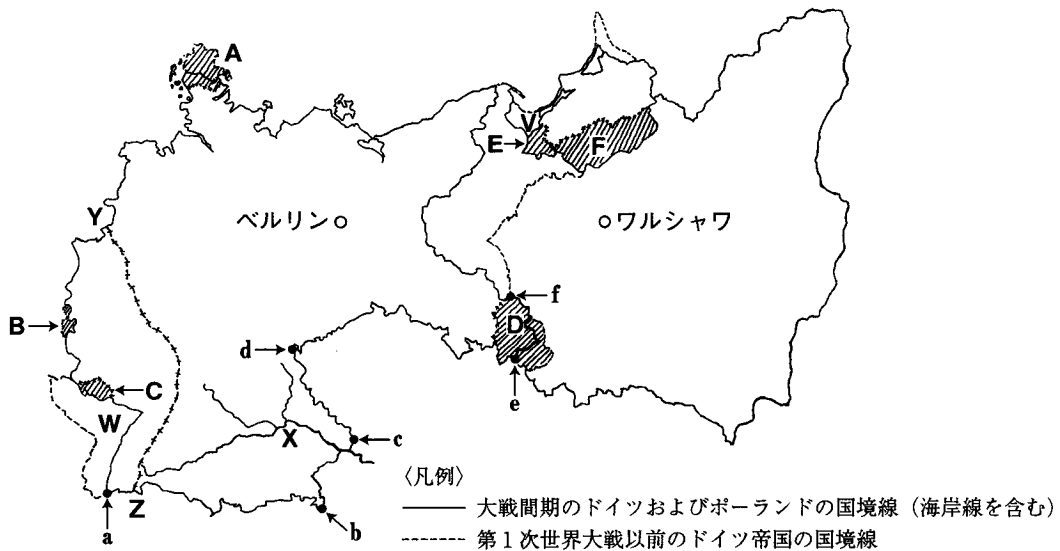
キリスト教はユダヤ教を母体とし、イエスを救世主と信じる人たちの間で成立した。その後ローマ帝国内に広まり、1 教会が設立されていったが、たびたび国家による迫害を受けた。2 帝国に公認され、そして国教としての地位を得るのはようやく4世紀のことであり、すでにこの時には教会内に神学上の見解の対立があった。

教会にとっていま一つの大きな問題は、3 五本山による首位権争いであった。4 ローマ教会は、451年のカルケドン公会議でその筆頭的地位を認めさせることに成功するとともに、4 ゲルマン人への布教などに努めたが、西ローマ帝国の滅亡やイスラーム勢力の台頭で問題は複雑化した。結局ローマ教会が選んだ道は、5 ビザンツ皇帝にかわる保護者の選択であり、それがカロリング家との提携であり、カールのローマ皇帝戴冠であった。

5 962年、帝冠はドイツ王のオットー1世に与えられた。ローマ教会の次なる目標は、世俗勢力の支配や干渉から教会を解放し、世俗化の進む教会を改革することであった。6 教皇グレゴリウス7世はこのために闘い、その後初期の十字軍運動の成功もあって、6 インノケンティウス3世の時に教皇権は絶頂にたった。しかし、王権の成長と社会の変化にもなってやがて教皇の権威も弱まり始め、7 14世紀の一連の事件が起きることになるが、コンスタンツの公会議でも問題は部分的にしか解決できなかった。その後のフス戦争に見られるように宗教界の革新運動はあとをたたず、8 近代初頭の宗教改革にいたることになる。ローマ・カトリック教会も〔 9 〕で開かれた公会議で態勢を立て直し、この結果ヨーロッパ各地で宗教戦争が激化した。10 17世紀にいたってもまだ寛容には程遠い状態にあった。

- 問1 下線部 1 に関する下記の文のうちで誤っているものを選びなさい。
- ア ユダヤ教は一神教，選民思想，救世主の出現願望を特徴とする。
 - イ モーセは新王国期のエジプトからヘブライ人をパレスチナへと脱出させた。
 - ウ ヘブライ人の間に最初に王制を樹立したのはソロモン王であった。
 - エ 信仰や日常生活の規則である律法を極端に重んじる一派をパリサイ派という。
- 問2 下線部 2 に関する下記の文のうちで誤っているものを選びなさい。
- ア 帝国の西半部を支配していたコンスタンティヌス帝がミラノ勅令でキリスト教を公認した。
 - イ ニケーアの公会議でキリストを神の子とする説が正統教義とされた。
 - ウ ニケーアの公会議で異端とされたアリウス派はゲルマン人の間に広まった。
 - エ ユリアヌス帝はキリスト教を再び迫害したが，ディオクレティアヌス帝が正統のキリスト教を国教とした。
- 問3 下線部 3 の五本山のうち四つは，ローマ，コンスタンティノープル，イェルサレム，アレクサンドリアである。残る一つを下記の中から選びなさい。
- ア アンティオキア イ ダマスクス ウ アッコン エ エフェソス
- 問4 下線部 4 に関する下記の文のうちで誤っているものを選びなさい。
- ア カルケドン公会議でローマ教会の首位権を認めさせることに成功した教皇はレオ1世である。
 - イ 聖ベネディクトゥスがモンテ=カシノにつくった修道院はカトリック伝道運動の中心となった。
 - ウ ビザンツ皇帝レオン3世による726年の聖像禁止令以降，東方教会は聖人の絵や像を用いなくなった。
 - エ アタナシウス派への改宗が進展していた西ゴート王国は，8世紀初めウマイヤ朝に滅ぼされた。
- 問5 下線部 5 に関する下記の文のうちで誤っているものを選びなさい。
- ア メロヴィング朝の宮宰カール=マルテルは，トゥール・ボワティエ間の戦いでイスラームの軍を破った。
 - イ 小ピピンがカロリング朝を創始し，ロンバルド族を討ってトスカナ地方を教皇に献上した。
 - ウ カールにローマ皇帝の帝冠を与えたローマ教皇はレオ3世である。
 - エ カールの治世期には，神学者アルクインの指導で文化運動が展開された。
- 問6 下線部 6 に関する下記の文のうちで誤っているものを選びなさい。
- ア グレゴリウス改革の底流には，ベネディクト派修道院のひとつであるフランス東部のクリュニー修道院を中心とする肅正運動があった。
 - イ グレゴリウス7世の主たる目的は聖職叙任権を教皇が掌握することであり，帝国教会政策をとるハインリヒ4世と衝突した。
 - ウ ヴォルムス協約で皇帝フリードリヒ1世は，司教選挙の実施と教皇による司教職の叙任権を教皇に認め，皇帝側には選挙に出席し，俗権を授与する権利を確保した。
 - エ 「教皇権は太陽であり，皇帝権は月である」と述べたのはインノケンティウス3世であり，同教皇はカンタベリ大司教の任命問題でイギリス王ジョンを破門した。
- 問7 下線部 7 に関する下記の文のうちで誤っているものを選びなさい。
- ア フランス王フィリップ4世は，聖職者への課税に関して教皇ボニファティウス8世と争い，三部会の支持を得て教皇をアヴィニョンに幽閉した。
 - イ 14世紀後半，ローマとアヴィニョンに別々の教皇がたち，互いに正統を主張して対立した。これを大シスマという。
 - ウ イギリスのウィクリフは，カトリックの教義が聖書から逸脱していると批判し，教皇に対するイギリス教会の自立を主張した。
 - エ 神聖ローマ皇帝ジギスムントは，コンスタンツ公会議で大シスマに終止符を打ったが，ウィクリフの影響を受けるチェコのフスを火刑に処した。
- 問8 下線部 8 に関する下記の文のうちで誤っているものを選びなさい。
- ア ルターは，魂の救済は善行によらず，福音への信仰のみによると説き，九十五カ条の論題を発表した。
 - イ 皇帝カール5世はルターをヴォルムスの帝国議会に召喚し，自説の撤回を要求したが，ルターはザクセン選帝侯にかくまわれた。
 - ウ カルヴァンの予定説とは，魂が救われるか否かは，あらかじめ神によって定められているというものである。
 - エ イギリス国教会は，ほぼルター主義を採用しているが，司教（主教）制を維持するなど，旧教に似通った点が多く残っている。
- 問9 [9] に当てはまる地名を下記の中から選びなさい。
- ア トリエント イ フェラーラ ウ ヴァチカン エ フィレンツェ
- 問10 下線部 10 に関する下記の文のうちで誤っているものを選びなさい。
- ア 三十年戦争の発端は，チェコにおける新教系の貴族と旧教のハプスブルク家の君主との戦いであった。
 - イ 三十年戦争では，新教国スウェーデンの国王カール12世が率いる軍が旧教軍に対抗して活躍した。
 - ウ イギリスの王政復古時における審査法は，官吏と議会の議員に就任できる者を国教徒のみに限定した。
 - エ ルイ14世は，ユグノーにも大幅な信教の自由を認めていたナントの勅令を廃止した。

Ⅲ 下図は第1次世界大戦と第2次世界大戦の戦間期のドイツとポーランドの版図を描いたものである。それを参考にしながら、下記の設問に答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。



問1 第1次世界大戦後、パリの講和会議を通じて敗戦国にかかわる戦後処理が議論されたが、それらは、ドイツに関してはヴェルサイユ条約、オーストリアに関してはサン=ジェルマン条約、ハンガリーに関しては(1)条約で扱われている。(1)に該当するものを、1つ選びなさい。

ア ジュネーヴ イ ヌイイ ウ セーヴル エ ロカルノ オ トリアノン

問2 ヴェルサイユ条約では、戦後の領土の帰属に関して当該住民の意思を尋ねる住民(人民)投票地域がいくつか設定されている。地図中の斜線を付した地域がそれに該当するが、このうちA地域での住民投票はその設定においても、その処理においてももっとも公正なものといわれる。この住民投票地域は2つに分けられていたが、そのうちの北側の投票区は、最終的にドイツから分離された。その分離先の国の出身者は下記のうちの誰か、1人を選びなさい。

ア グスタフ=アドルフ イ アムンゼン ウ デュナン エ キェルケゴール オ ゴッホ

問3 地図中の住民投票地域のうちの1つは、住民投票地域に設定されたにもかかわらず、現実の投票はようやく1935年に実施され、その結果は90パーセント以上の住民がドイツへの帰属を望んだ。それは地図中のどれか、その記号で答えなさい。

ア B イ C ウ D エ E オ F

問4 戦間期には、ドイツ国境の外側に残されたドイツ人の少数民族問題が浮上したが、いわゆるズデーテンラント問題はその典型的例である。このズデーテンラントと接する国境の範囲は以下のどれに該当するのか、その範囲を示す記号を2つ選びなさい。

ア a~b イ b~c ウ c~d エ d~e オ e~f

問5 ポーランドは、1918年1月のウィルソン米大統領の十四カ条でその独立がうたわれ、11月に独立を宣言した。東部の国土は、図中に見られるように東に広く広がっている。その東部の国境線について正しく述べているものはどれか、1つ選びなさい。

ア 18世紀後半にポーランドが3次にわたって分割される以前の、ポーランド東部国境にほぼ合致している。
イ 18世紀後半のポーランド第1次分割の際に、ロシアが併合した地域の西側ラインにほぼ合致している。
ウ 18世紀後半のポーランド第2次分割の際に、ロシアが併合した地域の西側ラインにほぼ合致している。
エ 18世紀後半のポーランド第3次分割の際に、ロシアが併合した地域の西側ラインにほぼ合致している。

問6 地図中のXはドイツ領に源を発する大河である。ドイツの領土を出た後の河道は、図中に一部を示すのみである。さて、この川の流域で発生したできごとではないものを1つ選びなさい。

ア モハーチの戦い イ フィウメ併合 ウ オスマンによるウィーン包囲
エ ボスニア=ヘルツェゴヴィナの併合 オ ブルガリアの独立

問7 地図中の Y ~ Z 線以西は、ヴェルサイユ条約によって非武装地帯とされた地域であるが、ドイツ軍のラインラント進駐によってこの取り決めは破られることになった。次の歴史的事実のうち、この事件より後に起きたものはどれか、1つ選びなさい。

- ア ロカルノ条約締結 イ 日本の国際連盟脱退 ウ 日独防共協定の調印
エ 仏ソ相互援助条約締結 オ ドイツ国会議事堂放火事件

問8 地図中 V の記号を付した都市は、ヴェルサイユ条約によって国際連盟管理下の自由市とされた。次の文章のうち、この都市について正しく述べているものはどれか、1つ選びなさい。

- ア この都市はもともとポーランド人が多数を占め、ポーランドの唯一の海港として栄え、自由市となることを望んだ。
イ この都市はハンザ都市として栄えていたが、住民の多くはポーランド人であったために、ドイツ領であることを嫌って自由市となることを望み、ドイツから分離された。
ウ この都市はポーランド唯一の海港とするために、住民は圧倒的にドイツ人が多いにもかかわらず、自由市とされた。
エ この都市はポーランド人とドイツ人がほぼ同数住んでおり、住民投票地域と設定することが不適当であったために、ドイツの敗北を機に自由市とした。

問9 地図中 W の地域は、フランスが「歴史的権利」を主張して、第1次世界大戦後にフランスに割譲された地である。この地に関して正しく述べているものはどれか、1つ選びなさい。

- ア この地は、1871年にドイツに併合される前から、ひとつのまとまった行政単位であった。
イ この地は、有名なフランス語使用地域で、ここでのドイツ併合直前におけるフランス語の最後の授業は、短編小説を通じて広く知られている。
ウ この地は、1871年に、ドイツに併合されたが、それをきっかけとしてナポレオン3世が反ドイツをフランス国民に訴えて皇帝の座を手に入れた。
エ この地ではドイツ語に属している言語が一般に使用されていたことが、1871年にドイツに併合された理由のひとつでもあった。

IV 19世紀末以降のアメリカ合衆国の対外政策について、次の設問に答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄に、問1～9はそれぞれ一つ、問10は二つマークしなさい。

問1 19世紀末から合衆国はカリブ海における覇権の確保に本格的に乗り出すが、パナマの独立を援助し、合衆国によるパナマ運河の建設と支配を可能にした大統領は誰か。

- ア タフト イ フーヴァー ウ マッキンリー エ セオドア=ローズヴェルト

問2 合衆国が列強への門戸開放通牒(宣言)によって中国の領土保全を提唱する直接の契機となった出来事はどれか。

- ア 日清戦争 イ 義和団事件 ウ 戊戌の政変 エ 辛亥革命

問3 第1次世界大戦前後の合衆国の対外政策について、正しい記述はどれか。

- ア 19世紀末以来積極的な海外進出政策に転換していた合衆国は、開戦と同時に連合国側の一員として参戦し、勝利に貢献した。
イ 大戦中チェコ兵の救出を名目に各国と共同でシベリアに出兵した合衆国は、ロシア革命の阻止を目的として1922年まで駐留した。
ウ ウィルソン大統領のいわゆる十四カ条に基づいて国際連盟が発足したが、合衆国の加盟は下院で否決され、実現しなかった。
エ 戦後国民の間には孤立主義の風潮が広がったが、ワシントン会議やドーズ案に見られるように、国際問題における合衆国の指導的役割は増大した。

問4 1917年の石井=ランシング協定では、中国における日本の特殊権益が承認される一方、中国の領土保全・門戸開放の尊重が約束されたが、この協定を事実上無効化したのはどれか。

- ア 下関条約 イ 桂=タフト協定 ウ 再軍備宣言 エ 九カ国条約

問5 1928年の不戦条約は、ヴェルサイユ体制下における国際協調の一時的な高まりを象徴するものであるが、この条約に最も関係の深い国務長官は誰か。

- ア ハーディング イ ヤング ウ ケロッグ エ ジョン=ヘイ

- 問6 1933年のパン=アメリカ会議ではラテンアメリカに対する合衆国の内政干渉権の否定が表明されたが、フランクリン=ローズヴェルト大統領のこのような外交政策を何と呼ぶか。
- ア 不干渉政策 イ 善隣外交 ウ 宣教師外交 エ 宥和政策
- 問7 第2次世界大戦時の合衆国について、正しい記述はどれか。
- ア 1935年に中立法を制定した合衆国は、1941年末の参戦まで連合国側への援助を一切行わず、大戦に巻き込まれることを避けた。
- イ 1941年春からの日米交渉の決裂により、合衆国は日米通商航海条約を破棄して日本への石油の供給を停止した。
- ウ ミッドウェー海戦で大敗した合衆国は、形勢を逆転するためにB29長距離爆撃機による日本本土空襲を開始した。
- エ 1944年6月、アイゼンハウアーを総司令官とする連合軍によるノルマンディー上陸作戦が行われ、第二戦線が形成された。
- 問8 次の文章のうち、1943年のカイロ会談についての説明はどれか。
- ア フランクリン=ローズヴェルトとチャーチルがシチリア島およびイタリア本土の上陸作戦について協議し、またドイツに対する無条件降伏要求の原則を決定した。
- イ フランクリン=ローズヴェルト、チャーチル、蒋介石が対日戦争の基本方針について協議し、朝鮮の独立などを取り決めた。
- ウ フランクリン=ローズヴェルトとチャーチルが戦後構想について協議し、領土の不拡大や恒久的安全保障の確立などで合意をみた。
- エ フランクリン=ローズヴェルト、チャーチル、スターリンがドイツの戦後処理やソ連の対日参戦問題について決定した。
- 問9 合衆国、イギリス、ソ連、中国によって国際連合憲章の原案が作成されたのは、どの会議においてか。
- ア サンフランシスコ会議 イ ジュネーヴ会議
- ウ ブレトン=ウッズ会議 エ ダンバートン=オクス会議
- 問10 次の文章は東西冷戦に関する史料の一部である。(a) (b) に当てはまる国名をア～クの中から二つ選択しなさい。
- 「合衆国の対外政策の主要な目的のひとつは、われわれや他の諸国民が、圧制のない生活様式を打ちたてることのできる条件をつくり出すことである。……
- 世界史の現時点において、ほとんどすべての国が二つの生活様式のどちらか一方を選択することを余儀なくされている。その選択はあまりにもしばしば自由でないことが多い。
- 一方の生活様式は多数者の意志に基づいており、自由な諸制度、代議政体、自由選挙、個人の自由の保障、言論と信教の自由、そして政治的抑圧からの自由を特徴としている。
- 第二の生活様式は、多数者に強制される少数者の意志に基づいている。それは恐怖と圧制、出版と放送の統制、不正な選挙、そして個人の自由の抑圧に依拠している。
- 私は、武装した少数者や外部からの圧力による支配の企てに抵抗している自由な諸国民を支援することが、合衆国の政策でなければならないと信じている。……
- もしわれわれが、運命を決するこの重大なときに、(a) と (b) に手を差し伸べることができなければ、その影響は、東洋のみならず西洋にまで及ぶであろう。……
- それゆえ私は、1948年6月30日までの期間内に (a) と (b) に総額で4億ドルの援助を供与する権限を私に与えるよう、議会に要請する。」
- ア 西ドイツ イ 日本 ウ トルコ エ ヴェトナム オ エジプト
- カ ギリシア キ チェコスロヴァキア ク ハンガリー

〔以下余白〕